

3 シンポジウム

(2) 今後の対応について【武蔵野市】

(福生市 加藤市長)

それでは、今まで皆様からお話をいただいた訳でございますが、やはり規模の大小を問わずして、何か見えてきたものが結構共通点があったのではないかと思います。今マグニチュード7、これから都市直下型地震がこの30年で起こる確率が70%を超えていると言われております。何としましてでも震災対応マニュアルの見直し等も含めて、「想定外」ではなく「想定内」にして行かなければならないというのが、私ども共通の意見でございます。そのことを踏まえまして、これからは今後の対策、今後はどのように各自治体やっていくのかというお話に移らせていただこうと思います。

今、馬場市長から絆づくりが大切だと伺った訳ですが、阪神・淡路大震災を経験して見ますと、関西地方では町会・自治会の加入率が、ほぼ軒並み80%を超えていると聞いております。なかなか今、東京26市の皆さん、町会・自治会の加入率に悩んでいるところですが、私どもも今45%位になってきました。行政ではわからなくて、どなたがどこに住んでいらっしゃるかを一番わかるのは町会・自治会の皆様だと思っております。それを踏まえてコミュニティづくりについて、それぞれ皆様からお話をお伺いしたいと思っております。

邑上市長いかがでしょうか。

(武蔵野市 邑上市長)

実は今日、発言順は年の順だと聞いていたのですが、年の順ということはちょっと順番が違うんじゃないかなと思います。何だか市役所が出来た順だということでございまして、正確に申し上げればベテランは長友さんでございます。若く見えますけれども。

さて、様々な課題、共通の課題もありますね。特に市民の皆さんの安全を守るといふ点では、同じような共通課題を持っているのではないかと思います。実は先週、私また三陸沿岸に行ってまいりました。4月の時点に一度行っていたのですが、先週も一巡してまいりましたが、まだまだですね。まだまだというのは、確かに瓦礫こそだいぶ撤去されたけれども、罹災された建物はまだ撤去されないでそのままであるということもありまして、どうしたら本当に復興されるのかなど。津波に浸かったところを、どうやって復興を成し遂げられるのかなど、大変心配でございます。まだ地域によっては復興計画も策定されて

いないところもございますので、国を挙げて対応しなければ復興なりえないと
思っておりますので、これはきちんとした体制を国でとって、我々も自治体と
して可能な限り支援をして行くことを進めて行かなければいけないと改めて感
じたところです。

そして、今回の地震を受けまして大切な視点として、「自治の視点」と「連携
の視点」が大切じゃないかと思っております。自治と言うのは当然のことなが
ら、私たち自治体は、自分たちのまちのことは自分たちで頑張っていくのが基
本でございますし、地域主権、あるいは地方分権改革が進む中で、ますます各
自治体の役割と責任が大きくなって来ている訳でございますので、これは各市
長頑張って行くのが当然と思っております。東京、他の地方等でもそうですが、
都市は単独で生存はできませんよね。我々の自治体も人口こそ多いのですが、
産業からすれば生産部門はほとんどない訳でございますので、これは色々な地
域に頼っている訳でございます。食べ物だってそうです。従いまして、我々だ
けでは単立できないからこそ、連携という視点が不可欠なんですね。ですので、
自立して頑張るといふことと、連携して更に絆を深めるといふことが、極めて
大切だと感じたところでございます。

自立という点で、ぜひ皆様方にお伝えしたいのは、市に避難所を作ってくれ、
災害用のトイレがないので作ってくれなど、色々要望されますけれどもそれ以
前の問題として、まず地震が起きた時に身の安全、自らの命を守るためにはま
ずお住まいの建物が耐震上補強されてなければいけない訳でして、それは自助
の範囲ですね。自助・共助・公助という言い方ありますが、自助の取組みをぜ
ひ進めていただきたいんですね。私どもの市内の住宅は約7割以上耐震化が出
来ておりますが、逆に申せばまだ3割位耐震がなされていないんですね。そう
いう御家庭に行きますと、おおむね高齢者の住宅が多いのですが、「うちはもう
いいわよ」とおっしゃるんですね。避難所をちゃんとしてよと言われますが、
避難所に来る前にケガをされたら困るので、まずは御自宅の安全確保から願
いしたいと思っております。

東京都市長会では家具転倒防止器具の補助も追加でしておりますので、ぜひ
積極的に活用して下さい。私どもの市民も最大限活用しておりますので、26市
の中で先にその予算を使い切ってしまったね。26市全体で見るとまだまだ
使われてない市もあるということをお聞きしておりますので、福生市の状況
はわかりませんが、ぜひそういう無料での取り付けの支援もありますので、積
極的に活用いただけたらと思っております。

そして、先ほども防災行政無線放送の話がありました。うちの市でもそうで
す。特にマンションが建って行けば、電波が乱反射してしまい、何を言ってい
るか分からないんですね。我々ももちろん防災無線放送を行いますので、それが

完全に聞き取れないだろうということを踏まえて、多様な情報伝達手段を今考えています。一つは原点に戻って、アナログジカルな伝達方法として、何か放送する時にはその同じ内容を、各公共施設の入口に掲示板で貼るということを合わせて行っていこうと考えていますし、もう一つは地域のローカル放送なのですが、むさしのFMと言うローカルFMを持っておりますので、それは停電時でも携帯用の電池式のラジオがあれば聞くことができるので、それを最大限活用して行こうと思っております。まだまだ聴取率は少ないのですが、これを積極的に広めて行くことで、いざという時の情報手段に使うて行こうと考えているところでございます。

そして連携と言うことでは、先ほど私どもの自治体が色々な市と連携しているというのをお話しましたけれども、その前提としてまずは周辺地域の自治体との連携、これが不可欠でございます。市民は指定された避難所というのは、なかなか難しいですね。いざという時にその避難所が安心かどうか、安全かどうかわからないこともありますので、場合によっては市域を越えて隣町の避難所に行く、これは当然あり得ますので、そういう面では隣同士の自治体がまずは連携して様々な取組みを進めて行くことが不可欠ですし、26市のこの関係も必要ですので、大いにその意味では自治体の連携をこれからも深めて行くべきだと思っております。自治と連携を通して、ますます安心安全なまちづくりを進めていきたいと思っております。

(福生市 加藤市長)

邑上市長、ありがとうございました。様々やはり各市長も災害の現地に行つて、その大変なところを見ている訳ですが、皆さんもお気づきだと思いますが、皆様方の背後に派遣した職員が撮ってきた写真がございます。生々しい写真ばかりでございますが、こういう状況になっているんだということです。後で見ただければと思います。